

JC NEWS

6月号



- ・ JCニュース800号記念企画
 - ・ 長崎JCを深堀る！
- 「想いを繋ぐ例会へ」

一般社団法人長崎青年会議所

今後のJCニュースに活かして
参ります！！アンケートのご回
答を宜しくお願い致します。



一般の方は
➡こちら



特別会員は
➡こちら



正会員は
➡こちら



仮入会員は
➡こちら

目次

<u>理事長挨拶</u>	 3 P
<u>JCニュース800号記念企画</u>	 5 P
特集 <u>長崎JCを深堀る！</u>	 9 P
<u>5月会務室担当例会</u>	13 P
<u>例会委員会メンバー紹介</u>	14 P
<u>日本JC出向者紹介</u>	16 P
<u>サマーコンファレンス案内</u>	18 P
<u>仮入会員必修セミナー案内</u>	19 P
<u>第10回会員拡大会議</u>	20 P
<u>All Jayceesのご案内</u>	21 P

理事長挨拶



紫陽花が美しく咲き誇る季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。雨の日は敬遠されがちですが、雨ならではの空気の澄んだ美しさや静けさを感じ取ることができ、私は決して嫌いではありません。

さて、私達青年会議所にとって最も基本的かつ重要な活動の一つが、毎月開催される「例会」です。4月はスタジアムシティホテルにて、5月は長崎商工会館にて開催致しました。熊谷委員長をはじめとする例会委員会の皆様には、慣れない会場での設営や、担当例会の企画・運営に誠実に取り組みんでいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

す。本号において各例会の内容を特集しておりますが、あえて通常とは異なる会場で開催したことに、大きな意義があると考えております。メンバーの皆様には、今回の経験をとおして、「これからの例会をどのようにしていきたいか」という肌感覚を得ていただけたのではないのでしょうか。その感覚をどう形に残し、次代へと継承し、さらなる成長と発展の機会を生み出していくかを、是非皆で考えていきたいと思えます。

また、長崎青年会議所が継続的に作り上げてきたもののひとつとして「JCニユース」が挙げられます。本号の特集でも取り上げて



おりますが、時代の変化に伴い、その形態は進化し続けてきました。しかしながら、その本質は変わることなく、各年度の想いや歴史が丁寧に刻まれております。このたび迎えた通算800号もまた、その軌跡の一部であり、900号、そして1000号へと確実に受け継がれていくことでしょう。私達がこの一瞬一瞬を大切に過ごし、思いを表現し続けることこそが、時空や世代を超えた共感を生み、さらなる運動のうねりへとつながっていくものと信じています。

ところで、本年理事長を務めさせていただく中で、しばしば「家族・仕事・J」の三本柱のバランスをど

のように保っているのか」といったご質問を頂戴します。その答えは人それぞれだと思いますが、私自身が感じている共通の鍵は、「自分の行動に誇りを持てているかどうか」です。自信を持って取り組む姿勢は、家族や職場の方々にも自然と伝わり、信頼を得る基盤となるからです。自らの行動に意味を見出し、そこから何を学び、どう活かしていくかを常に意識しながら日々の一步を丁寧に重ねていくこと。それこそが、全ての歯車を円滑に回すヒントになると感じています。自らの選択を信じ、前向きな変化を恐れず、ともに歩んでまいりましょう。

800号記念企画

JCニュースを振り返る

100号毎の節目に、長崎JCが歩んできた活動・運動を振り返る特集や、歴代広報委員長による座談会や、今後のJCニュース・広報のあり方について考える記念企画が数多く実施されてきました。そして今回の800号記念号では、JCニュースの変遷や変化の歩みを振り返っていきます。

JCニュースの始まり

1952年12月1日に長崎JCが発足し、翌53年に第1号が発刊されました。当時は文化部会がJCニュースを発刊しました。使命は、

- ①JC理想の達成
- ②JC事業活動の推進
- ③JC精神及び活動の紹介普及

と決まり、「修練・奉仕・友情」の3信条の実践の場であることが明確にされました。初代理事長の岡部正先輩は

「我々の行動を規制し、判断に基準を与え、方向性を指示するのは我々の理性であり、我々の論理である」と説明し、JCニュースが我々の指針になると語っております。他に「広告収入による財源確保」という目的もあったそうです。



JCニュース第1号



疑惑の!? JCニュース広告欄(第1号)

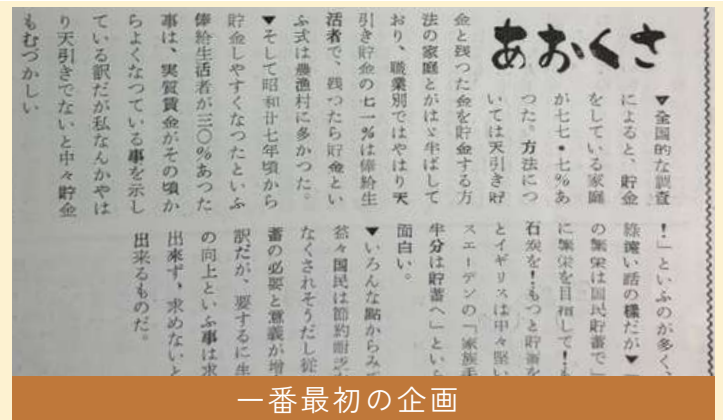
当時、広告掲載に関しては会員名簿順で計画していましたが「強制とは何事か!」と発刊からわずか2号で終了となりました。

執筆者の苦悩

当時は取材、編集、印刷、発送が会員の手で行われ、1号あたり約17,000文字と大変な苦勞を見ることができます。編集委員は月に最低4回、3時間以上の会議を重ねJCニュースの作成をしていたそうです。当時の委員長は「**編集するだけだと思ってたのが運のつき、2年間の苦行が始まった**」と吐露していました。(1956年9月号 JCニュース第30号より抜粋)

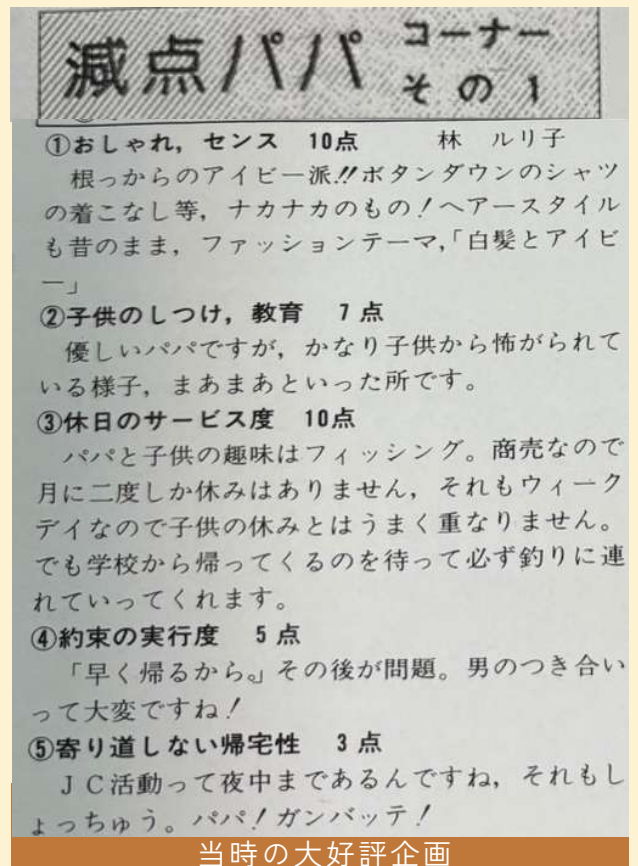
年度で見える様々な企画

事業や活動報告の他に、発刊当時の記事では、青二才の青臭い意見である「あおくさ」、当時の時事問題や風刺、政治に対する考えを綴った



「ピンセット」といったコラムが掲載されていました。戦後の大変な時代を駆け抜ける真っすぐでひたむきな想いや、時代へのもどかしさが、文章からひしひしと伝わってきます。更に時代を重ねると、次第に記事内容にも変化が伺えます。

「減点パパ」「奥様こんにちは」「会員婦人会」など、会員夫人の辛辣な意見やユーモアのある記事・企画が散見されます。



JCニュースの変貌

当初は白黒印刷でしたが、時代の流れとともに進化を遂げます。1964年(第12年度)度に表紙に色が入り、1967年(第15年度)に表紙が全面カラーに変更され、写真の掲載も増加し、視覚的に訴えるより華やかな誌面になりました。



JCニュース大変革の到来

JCニュースは幾度かの転機を迎えます。一番の大転換期は2002年(第50年度)になります。それまで他LOMや他団体など外部に向けて配布していたJCニュースは、対内向けの広報媒体としての役割へと舵を切りました。対外向けの情報発信は長崎JCのWEBサイトが担い、発行形態も製本型から新聞型へと移行しました。



また、2020年(第68年度)には紙媒体からWEB形式へと電子化され、情報発信の形が大きく進化しました。そして2022年度には「一般市民の皆様にも長崎JCを知っていただきたい」という思いから、再び対外発信のツールとしての役割を担うようになります。2025年(第73年度)においても、より多くの特別会員や一般市民の皆様にご覧いただき、長崎JCを知っていただきたい想いで制作しております。引き続き皆様に愛されるJCニュースの発刊に努めて参りますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



過去のJCニュースは事務局のキャビネットの中に、大切に保管されています。

バックナンバー



長崎JCを深堀る！

「想いを繋ぐ例会へ」

渉外広報委員会が事業の背景や想いに潜入する企画「長崎JCを深堀る！」の第4弾は、会場を変えて担当例会の新たな可能性に挑戦した例会委員会です。

4月例会は**出席率91.1%**と、約3年ぶりに90%超えを記録しました。スタジアムシティという新しい会場で、行政との連携を軸に構成された4月例会。小西先輩をお迎えしての5月例会。その裏には多くの挑戦と準備がありました。



聞き手：渉外広報委員会

例会委員会
委員長 熊谷 将希君

森 恭平君

大崎 優希君

中山 笑里君

大崎：何故、4月5月と例会会場を変更したんですか？

熊谷：例会の会場を変えるのは、本年度のチャレンジのひとつだったんです。これから先、メンバーも予算も限られてくる中で、柔軟に会場を選べるって大事だなと思って。今回の変更で様々な発見がありました、また例会のあり方を見つめ直す良い機会になりました。



大崎：会場の変更は大変だったと聞きましたが、実際どうでした？

熊谷：本当にいろいろ大変でした…。正直、「ニュー長崎」さんのありがたさを改めて実感しました。スタッフの皆さんが段取りも分かってくれてたからスムーズにできていて、当たり前が当たり前じゃなかったんだなって気づかされました。改めて何が必要で、小さな事にも気づくことの大切さや学びが多くて、凄く良い経験になりました。詳しくは報告議案にいっぱい書いてるんで見て下さい。笑

大崎：今回スタジアムシティを会場に選んだ理由は何ですか？

熊谷：スタジアムシティがオープンして半年。長崎にどんな経済的・社会的な影響をもたらすのか、JCだけじゃなくて、スタジアムシティの関係者や行政の人達と一緒に考える機会にしたかったんです。100年に一度のまちの転換点にふさわしい場所だと思うし、ここを「学びと連携の場」にしたかったんですよね。それに「民間企業がここまでやった」という事実自体にすごく価値があると感じていて、活用しないのはもったいないなって。今回、担当例会だったからこそ自由に企画できたし、今後、青少年事業とかまちづくり事業にも繋がっていく可能性のある場になると思ったので、そういう繋がりを作りたかったんです。



森：行政とJCの協働についてはどうでしたか？

熊谷：準備の段階で、ほぼ毎日市役所に通っていたんです。職員の方にとってもJCの活動に触れるのは貴重な機会だったみたいで、相互理解が深まったと感じています。行政側の熱量を肌で感じたことで、メンバーの意識も少し変わったんじゃないかなと思います。「一緒に長崎を良くしたい」という共通の思いなので。民間と行政が手を取り合えば、もっと大きなことができる。その“協働の機会”を作ることが、4月例会の裏目標でした。



森：4月5月の例会のできは何点ですか？



熊谷：僕は、100点満点かなと思ってます。結構イレギュラーなこともあったんですけど、その都度メンバーがしっかり対応できたし。ちょっと動線が違うだけで全体の流れが崩れたりもするんで、そこを確認しながらの担当例会というのは、ちょっときつかったですね。

中山：小西先輩とどのような話をしたんですか？



熊谷：例会や日本JCについて、ざっくばらんにお話をさせていただきました。小西先輩の言葉には一つひとつに重みがあり、心に深く残るものばかりでした。普段なかなかお会いできない方とじっくりお話することができたのは、本当に貴重な経験でした。めちゃめちゃ緊張しましたがけど(笑)

森：熊谷委員長の考える「例会」とは何ですか？

熊谷：例会って、自分達の目標をもう一度見直して、理念や方向性を共有する大事な場なんです。特に第1部は、やっぱり緊張感を持って臨むべき。セレモニーには青年会議所の想いや方向性が込められていて、会社でいう“経営理念”みたいなものなんですよね。そこを曖昧にしたままでは、どんな活動も意味がないと思うんです。正直、入会当時は例会の大切さは分からなかった。ちゃんと出席して、理事長の話を聞いて、セレモニーもしっかりやって自分達がどの方向に向かってるのを認識する場としてはめっちゃめっちゃ重要だろうなと思っています。だから「とりあえず出席したらOK」みたいな例会には絶対にしたくないんです。6月は例会がセレモニー担当なので、仮入会員でも完璧にやるんで見ていて下さい！！（※6月6日の例会では完璧なセレモニーを披露していただきました！）



**例会は、皆で同じ方向を向くための場。
だからこそ、真剣に、誠実に向き合いたい。**

取材後記

熊谷委員長の言葉には、真っ直ぐな覚悟と仲間への深い信頼がにじんでいました。例会とは何か。なぜやるのか。その問いに対して、現場で汗をかきながらも愚直に向き合い続けた姿に、私達自身が改めて背筋を正される思いがしました。11月、委員会の集大成となる例会がどんな形で実現されるのか、今から心から楽しみです。



5月会務室担当例会



5月8日(木)、長崎商工会館にて「次世代リーダーの育成～自ら考え行動するリーダーへ～」が開催されました。公益社団法人日本青年会議所 第74年度直前会頭・小西毅先輩をお招きし、リーダーとしての意思決定と責任、理事役員を務める意義と成長、リーダーシップ開発など、JCの魅力について実体験をもとにご講演いただきました。

小西直前会頭は自らに負荷をかけて積極的に役職を受け、LOMの理事長、そし会頭へと挑戦してこられました。その中で、組織の長として決断力や責任感など多くの学びが成長に繋がり、周囲を巻き込む力が養われたことなど語られました。

現役会員に対しても、理想を現実に変える力を培うために、自ら率先して様々な機会を掴んでほしいと仰っておいりました。5月から参加した32名の仮入会員も、熱心に耳を傾けていました。



委員会メンバー紹介

例会委員会



委員長 熊谷 将希君

メンバーに感謝しつつ、最高の例会委員会だったと振り返ってもらえるような一年にします！そして、みんなで緊張感のある格式ある例会を創り上げていきます！



副委員長 横内 裕太君

ただ参加する例会ではなく、意義と目的、学びを皆さんに伝えていけるように、変えたのは本年度の例会なのだと思います。よう努力していきます。



運営幹事 鳥巢 峻輝君

不慣れなタスクも多いですが、月々の例会が滞りなく進むよう、委員会運営をサポートできるよう頑張ります。例会最高！ニュー鳥巢になります！



拡大幹事 新垣 充生君

事務局の住人こと新垣です。事務局でJCをされるときは呼んで下さい。いつでも駆けつけます！！むしろ来て下さい！いつも心は例会と事務局とともに



田河 毅宜君

卒業年度の集大成として全ての例会を
実りある会にします。次にバトンタッ
チできるよう頑張ります。



長野 雄太君

委員長を中心として、熱意のあるメン
バーが多いです！私も負けないように
貢献して参ります！



平田 太郎君

準備と努力で例会がスムーズに進めら
れています。当たり前が当たり前であ
ることのありがたさを知りました。



深堀 直樹君

委員長を筆頭に全員が修練しながら皆
で例会を作り上げている感覚を体感し
ています！例会最高！



藤本 真希君

毎月の例会や委員会で、学びや得るも
のが多いです。今後にしっかり活かし
ていけるよう頑張ります！



溝口 雄大君

会員に積極的に参加いただけるように
楽しみながらも学びのある例会運営に
努めます。例会はニュー長崎で！

日本JC 出向者紹介



サマーコンファレンス特別委員会



大会の企画構成、当日の運営、統括を行ってます！皆さん是非来て下さい！

運営幹事
横内 裕太 君
例会委員会



松本 考功 君
副理事長



佐藤 峻 君
地域室長



当麻 葵 君
総務室長



一倉 瑞貴 君
まちづくり委員会



多良 匠平 君
青少年育成委員会



渉外委員会

総括幹事補佐 中山 笑里 君
渉外広報委員会



豊田顧問の御付きで頑張ります！！

総合連絡調整会議



組織論における本会の叡智を集約し、皆様の組織論をアップデートできるフォーラムになってます！

副議長 山田 幸平 君

渉外広報委員会

池田 裕介 君

副理事長

大平 大樹 君

副理事長

檮木 華南 君

交流委員会

蒔田 賢太 君

会員拡大委員会

総合連絡調整会議のフォーラムは、19日15時40分～
国立大ホールで開催しますので、是非お越し下さい！

サマーコンファレンス2025

7月19日(土)20日(日)

本年度は各地域にある課題を解決するために、皆様が住み暮らす地域の理想の姿をデザインし、それを実現するための取組みや実例、実現した理想の地域モデルをセミナーやフォーラムを通じて紹介します。皆様が当事者として、地域の未来に対して行動できる起点となります。

フォーラム紹介

詳細は [コチラ](#) ➡

Local Breakthrough ～日本を変える地域ブランド戦略～

地域の魅力を再発見しようとする各地
青年会議所が運動構築のヒントをGet



7.19 12:10-13:40 **Get Your Future**
SAT 国立大ホール

「TEAMで成果を勝ちとれ!! ～でもなんで組織って こんななん??(°Д°)～」

組織に課題を抱えるLOMが運動
構築のヒントをGetできる



7.19 15:40-16:50 **Get Your Future**
SAT 国立大ホール

仮入会員必修セミナー

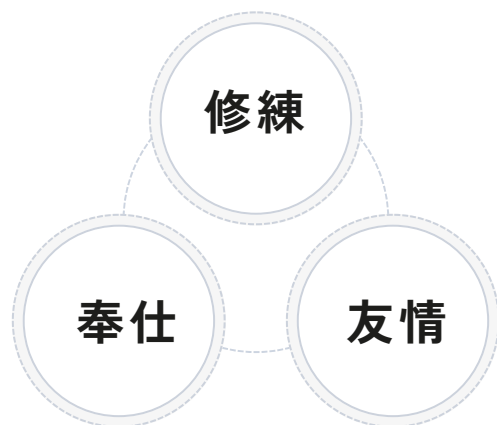
【GRIT EVOLVE～仲間とともに歩む～】

講師：櫛田 啓様
一般社団法人京丹後青年会議所OB
社会福祉法人 みねやま福祉会



仮入会の新たな32名の仲間へ

仮入会員に向けた特別講演を実施します。講演に加え、ワークショップやチームビルディングをとおして、JCの理念・目的を知るとともに、自身を見つめ直し、仲間との絆を深める一日となることを目指しております。仮入会員の皆様はもちろんのこと、正会員の皆様にも是非ご参加いただき、次代を担う仲間達の歩みに寄り添っていただければ幸いです。



日時：7月5日(土)11時00分～16時51分
会場：長崎県建設総合会館8階大会議室
〒850-0874 長崎市魚の町3-33

TEL095-826-9141

第10回会員拡大会議



5月20日(火)、事務局にて最後となる第10回会員拡大会議が行われました。

本年度は35名の新入会員獲得を目標に掲げ、昨年10月18日(金)の第1回会議から取り組んで参りました。活動にあたっては、特別会員である先輩方からのご講演や多大なるご支援を賜り、正会員一人ひとりが拡大に対する意識を持ち、積極的に行動することができました。その結果、目標にはわずかに届かなかったものの32名の高い志を持つ仮入会員を迎えることができ、誇りを感じております。

今回の会議では、次年度に向けた引継ぎリストの精査を行い、「明日からの種まきが第74年度の拡大に繋がる」との共通認識を持って、1年間の活動を締めくくることができました。拡大幹事の皆様をはじめ、特別会員の先輩方、そして日々の活動を支えてくださった正会員の皆様に、心より感謝申し上げます。



2025年
10/31
Fri.



一般社団法人長崎青年会議所

第73年度

All Jaycees

日程：2025年10月31日(金)

場所：ホテルニュー長崎 鳳凰閣

対象：特別会員、正会員

お問い合わせ先：第73年度交流委員会 委員長 野口将司

☎090-7381-7568

来たる10月31日(金)、歴代の全会員が集う「All Jaycees」を10年ぶりに開催する運びとなりました！
詳細は今後、7月末を目処に決定事項をご案内させていただく予定となっております。
まずは日程の確保の程、宜しくお願い致します。

長崎JCとは



※クリックで紹介動画が見られます

長崎JCは1952年12月に発足し「明るい豊かな社会」の構築を念頭に置いて、我々の郷土長崎のみならず、長崎県、九州、日本、そして世界に貢献できる様々な事業を展開して参りました。

我々、長崎JCは「修練」「奉仕」「友情」という三信条のもと、20歳から40歳の青年達が次世代を担う地域のリーダーとなるべく、様々な研修やセミナーを重ねて、個人の資質を向上させ、地域社会に貢献できる人材の育成に努めております。

また、より良い長崎にする

ために奉仕の精神と郷土愛を胸に、活発な議論を交わし、知恵を出し合いながら「ひとづくり」「まちづくり」のための様々な事業を展開しております。そのような事業を通じて共に汗をかき、達成感を共有できるかけがえのない仲間を作ることができることも魅力のひとつです。

報恩謝徳

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL
NAGASAKI 2025

敬意と感謝を胸に

フォロー、登録をお願いします。

INSTAGRAM



FACEBOOK



X



YOUTUBE



長崎JCホームページ



会員名簿



新着情報

例会案内